

8月26日 施設研修について(報告)

[パソコン室にて、ノート経由で送られたレジュメを基に、宮繕の講義]



- ・ 屋上防水劣化状況(防水シートの貼付状況・新しい工法=塗膜防水加工。塗布後にゴムのような弾力と質感。屋上に断熱コート利用の場合は白い塗料が熱反射にすぐれており、高木瀬小のように低層一戸建が周囲に展開する場合は有効。しかしながら、鍋島小など高層住宅が展開する場合は色調を抑える。)
- ・ 屋上緑化は最近もてはやされているが、学校建築では、維持管理に課題。
  - ・
  - ・ 体育館スレート葺の破損…早期発見・早期施工がひび割れ劣化を食い止める。
    - ・
    - ・ 排水設備概念図…トラップ設置の意味・形状について説明。封水の常態化が必要(臭気防止のため)。封水の乾燥・蒸発による悪臭対策としては水洗の稼働による流水・換気扇の設置等。
- ・ 床劣化における張替補修…床材はモザイクパーツからフローリングへ。
- ・ 木材は、過去は無垢材が主流であったが、現在は複合材(無垢とベニヤの合板)。圧縮材で機能強化もできるが、コスト高に。原則、床は現状復帰の一部補修に留めるのが望ましい。無垢材は複数回の研磨塗装に耐えるが、複合材は一回程度。小まめな手入れ・塗装で張替を避けるとか、木材でなく別の素材に張り替える事を検討する事も大事である。

- ・ 給水設備概念図…受水層から加圧ポンプ+滅菌器を経て、高架水槽へ水を上げて各階へ給水するシステムや防火水槽の併設について説明。  
技術の向上により、安定した水圧を保ち、受水槽の貯水を通さずに、直圧での水道利用も可能になってきた。(給食のみ、直圧の学校もある)  
受水槽の新規設置のコストも考えると、今後直圧が増えるかもしれない。
- ・ 電気設備…高圧線から電気を引く部分の概念図。メーターを境に、外側が電力会社の管轄・内側が設置者の管轄で、営繕・管理を行う。
- ・ 漏水のメカニズム…槽・排水・給水の箇所におけるスイッチの故障や目詰まりが原因の場合も。山間部の学校は、管の凍結による漏水もあり、露出管の保全も課題である。発見の目安は、二カ月おきの水道検針票だけでなく、敷地内のメーター確認、晴天時に湿った箇所や、側溝からの流水など。

[春日小の施設・設備点検による実務研修]

- ・ 旗立台の根元の錆…根元が錆びつき。溶接かセメントの根巻で補強。
- ・ 木製遊具…ボルトの緩み・接地面の腐食にはセメント根巻が有効。ペンキ厚塗りは、ひび割れの見落としにつながる。



- ・ ブロック・フェンス…基礎部分がコンクリーの場合は、簡単に倒壊しないように支えが強固なので、斜めになったら早いうちに起こし戻して、根元を補強する。斜交いのフェンスは根元のボルト部分を締める。

- ・ 砂場…木枠の老朽化。ゴム縁などの別材検討も可能。砂が硬化する為入替を
- ・ ブランコ…板部分の割れ。上部鎖の磨耗。板の一点止は二点止の方が強固。
- ・ ジャングルジムと滑り台…錆腐食の進行を止めるための塗装を早めに。
- ・ 雲梯…接合部分の溶接・塗装などの部分補修がやりやすい。
- ・ 開閉盤・汚水ポンプ操作盤・浄化槽・キューピクル・受水槽防火槽(地下設置)の位置確認。
- ・ 外壁モルタル貼の打診(再接着の新工法にピンニングという部分接着がある)
- ・ 入り口塗装の剥落
- ・ 給食室の排気・ボイラー・拡張タンク保温・循環型等の説明
- ・ 水道メーターの位置確認
- ・ 体育館…床張り・天井貼り・水銀灯の電球交換と安定器について・バスケットゴールの取付ワイヤーのライン点検について・床のラインテープは板を傷めないものを。
- ・ 職員トイレ…手洗い場のトラップの説明。床タイルの打診。結露に関しては床の張替ばかりでなく、防水系の部材を検討することも。
- ・ 校舎屋上。防水シートが堅固な例。雨どいへつながる排水穴は、ゴミや木の葉が詰まりの原因でもあり、可能ならば取り除く。



[パソコン室へ戻り、質疑応答等]

- ・ 春日小改修の際の、配水管見取り図、水路の方向を矢印で示した青焼図面の公開。今後、工事関係の図面は確保しておくことの重要性。

- ・ 合併により、小中学校の増加と、自治体の手法の相違により、施設関係のマニュアルがより必要になってきた。施設係としては「工事の流れ」「修繕の流れ」を再度、改訂版を検討中。また、工事請負費や修繕料に添付する書類や手続にばらつきがあるが、根拠となる条文は？との問いには、運用上の流れで、適切な資料の提出を求められる場合があり、その明確化は、マニュアル改訂と同様、今後の課題となる…とのこと。

- ・ 遊具は寄附・受納で成立する施設であり、公費では修繕・維持のみ。

- ・ 工事・修繕に関するポイントや心構えについては、現状復帰が第一だが、別の素材や新たな工法を工夫し、別の手段を講じること。施工の工夫は業者とのやりとりがメインだが、事務方としては文書の整備を。

特に①明細見積書→②設計書→③予定価格→④見積書→⑤契約の流れの場合  
価格は②(107万)>③(102万)>①④⑤(100万)であり、ヒアリングでの要求額は②の部分になる。(ギリギリの配当では、十分に対応できない場合もあるので)  
日程や価格帯も、ひとつの流れとして捉え、仕事することが肝要。

- ・ 工事請負費<修繕料の学校配当状況については、今後の学校からの意見を取り入れつつ、検討したい。工事請負費>修繕料に戻るかは、今後の状況次第であり、役務費や原材料も含めた配分枠については、これからも検討したい。

- ・ 禁止手となる工事について

- ①床面積が発生する工事(国庫負担からみ)
- ②電気容量の変動する工事(光熱水費からみ)
- ③新規の舗装工事(ヒートアイランド現象)

- ・ 今後の施設研修の形態については、年に一度は技術や事務手順についての周知徹底をはかり、また他地区からの異動者への基礎研修を考えている。

- ・ 修繕的工事は運用の範囲内。小額施工を頻発するより一括する方法を。

- 山間部の業者依頼について。指名業者は市のHP公開。
- 空調整備については、管理棟・パソコン室・図書室・特別支援(状況により)機械は備品でも工事設置。更新が備品の場合も。今後の検討と提案を待つ。
- 校内安全点検簿についても、市監査で提出を求められる現在、これもマニュアル策定の必要がある。(共通で分かりやすく)
- 施設台帳整備・マニュアル改訂の動きの中で、共同実施の場を通じて意見質問を、施設係へ出して欲しいとのこと。集約した質問をオープンな形で回答し、学校現場に環流したい。これからも、共同実施を生かして、緊密な連携をとりたいとのこと。